

1. 教育の責任

グローバル社会に暮らす地域住民の、それぞれの対象に対する看護展開の実践プロセスを教授する。公衆衛生看護過程の展開に向けて健康課題への支援技術である保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、グループ支援・組織化の特徴、展開方法について演習を通して教授し、学生がその必要性・専門性を理解し、支援技術を展開する能力を養うことを目的とする。

2. 教育の理念

国内外のグローバル社会において、文化の影響を受けて共存する個人・集団・地域の多様な特性を理解し、健康課題を俯瞰的に捉えることを重視し、国際性と基本的な人権意識、高潔な倫理観と使命感を持ち、高い志をもって包摂社会を希求し、政治、経済、社会構造にも目を向け、多様なニーズに沿った専門性の高い看護実践力を涵養する教育を提供する。

3. 教育の方法

・講義では、教科書の内容にとどまらず、地域におけるさまざまな課題を提示し、医療従事者としてどのような知識や能力が必要なのかを学生自身が気づき、考えられるような講義内容を心掛けた。また、学生同士のロールプレイによる演習内容を取り入れ、それぞれの立場（保健師・当事者・家族）に応じた対応を経験することによって、「地域住民（および家族）の生活を支える」といった視点での保健師としてのアセスメントやケア方法について考えることができるような工夫を行った。さらに、地域住民が定住外国人であることも想定し、健康診断や乳幼児健診のロールプレイの場面においては、英語による問診表の活用を行った。多文化共生社会において、今後医療従事者が地域においてどのような役割を果たす必要があるかについて学生自身が考えるきっかけになったと思われる。

・講義と演習を併用することにより、知識と実践を結びつけることができるような教育方法を心掛けた。演習は4名以下の小グループで実践することで、学生一人一人が実践のための十分な時間を確保できるようにし、また、学生同士や学生と教員間において、お互いに意見交換がしやすい環境を提供した。さらに、演習の振り返りをレポート課題として課すことにより、学生が自身の実践の振り返りを行うことによって、自身の課題の気づきによりさらなる学びを深めることができるように工夫した。

4. 教育の成果

- ・ロールプレイによって学生自身が自身の実践について様々な立場からの振り返りを行うことができていた。
- ・提出物の提出状況は良好であり、課題レポートにおいても学生自身の新たな気づきや学びについて記載できていた。

5. 改善への努力と今後の目標

今後の目標として、実際に公衆衛生の現場において活躍されている医療従事者の実践などを聞く機会を設けることによって、今授業で学んでいることが地域でどのように役立ち、活用されているのかを知ることにより、学生の主体的な学びにつなげていく。

【添付資料】

- ・公衆衛生看護実践演習シラバス
- ・ロールプレイ評価用紙